

再評価結果（平成17年度事業継続箇所）

担当課：都市・地域整備局街路課
担当室長名：松谷 春敏

事業名	えんいちみなみ 円一皆実線	事業区分	街路事業	事業主体	三原市
起終点	自：広島県三原市円一町二丁目 至：広島県三原市皆実五丁目			延長	0.9 km
事業概要	円一皆実線、円一町二丁目から皆実五丁目に至る延長約0.9 kmの主要な幹線道路である。JR呉線との立体交差を含む延長0.9 kmの付加車線を含む3車線道路である。				
H8年度事業化	S48年度都市計画決定 (H14年度変更)	H8年度用地着手	H10年度工事着手		
全体事業費	36億円	事業進捗率	62%	供用済延長	0.36 km
計画交通量	5,860台/日				
費用便益分析結果	B/C (事業全体) 1.23 (残事業) 4.22	総費用：(残事業)/ (事業全体) 10.21/34.96億円 (事業費：10.16/34.91億円) 維持管理費：0.05/0.05億円	総便益：(残事業)/ (事業全体) 43.07/43.07億円 (走行時間短縮便益：42.3/42.3億円) (走行費用減少便益：0.77/0.77億円) (交通事故減少便益：0億円)	基準年：平成17年	
事業の効果等	・安全な生活環境の確保（歩道の設置による安全性の向上が見込まれる） ・円滑なモビリティの確保（踏切廃止による円滑な交通流動が見込まれる） 他7項目に該当				
関係する地方公共団体等の意見	通学時間帯に車両進入禁止の交通規制をかけられ、通勤車両は住宅密集地の4m未満の道路を迂回路として利用していることに無理があり、この解消は大きな効果がある。				
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	商業施設の新規立地のため、本路線を利用する交通量が増加し通学路の危険性が増加している。				
事業の進捗状況、残事業の内容等	一部において用地補償協議が難航し、工事着手までに長期間を要したが、現在までに0.36 kmを部分供用している。JR呉線立体交差事業が残工事の主な工事として残っている。				
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	一部において用地補償協議が難航し、JR立体交差関連事業の着手が遅れております。H28年度の全線供用を予定している。				
施設の構造や工法の変更等					
対応方針	事業継続				
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。				
事業概要図	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 20px;"> 計画交通量 5,860台/日 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 20px;"> 評価箇所 </div> <div style="flex-grow: 1;"> </div> </div>				

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。